

本報告書は 2026 年 6 月 7 日付で技術諮問委員会より提出された報告書に対して、NRRC 所長より出した返信レターを参考までに原子力リスク研究センターにて仮訳したものです。正式な報告書は英文版の原文のみとなりますのでご注意ください。

原子力リスク研究センター
一般財団法人 電力中央研究所
〒100-8126 東京都千代田区大手町 1-6-1

ジョージ・アポストラキス
原子力リスク研究センター所長

2026 年 6 月 29 日

ジョン W. ステットカー氏
技術諮問委員会委員長

件名：2026 年 6 月 7 日付 TAC 報告書「2027 年度 NRRC 研究計画案」

ステットカー委員長

我々の研究計画をレビューしていただく中での議論、および TAC から示された知見に感謝申し上げます。NRRC は TAC の結論と提言について、以下の通り回答する。

1. 2027 年度研究計画

掲題の報告書において、TAC は「2027 年度の研究計画案の全体的な範囲と各主要研究領域における構成プロジェクトの技術的な目的は、NRRC の短期的、中期的および長期的戦略目標と合致している。」と記している。こうした評価をいただいたことを大変ありがたく思う。

2. 「議論」セクションにおける分野横断的な課題と各研究活動に対する提言について

分野横断的な課題と四つの特定の研究活動に対する提言については、2027 年度以降の研究計画において考慮する。詳細は以下の通りである。

(1) NRRC 研究計画のプログラム横断的な統合

NRRC の研究チームは、TAC が各分野横断的な課題について特定すべきと推奨した項目を考慮し、研究計画体制の一環として、明確なプログラム横断的なフィードバックおよびギャップ解消プロセスを確立する。

(2) リスク情報を活用した供用期間中検査ガイダンス

NRRC と日本機械学会で日本特有の技術的、規制的、または規格上の課題は既に整理できて

おり、日本機械学会の場で上記の課題を解決する予定である。

国内の検査状況を踏まえて、RI-ISI の国内適用の効果を確認することが最優先と考えている。

RI-ISI の国内適用の効果を把握するために、NRRC は最初の 1 年目で国内の実機プラントに対して ASME Code Case N-716 に従い一通りの評価を実施する予定である。また、実施した評価は、国内の規格の作成状況を踏まえて、必要に応じて、更新する。

国内の実機プラントで実施した評価結果を踏まえ、RI-ISI の国内適用について事業者の合意が得られれば、各事業者の洪水 PRA モデルの整備状況を踏まえて、事業者と NRRC で段階的な実装戦略の必要性も含めて検討する。

国内の実機プラントでの評価と並行して、事業者と規制当局との協議を支援する。

(3) レベル 2PRA 評価事例

NRRC は、国内外のレベル 2 PRA の経験を考慮に入れ、シナリオ固有のケーススタディをさらに精緻化するためのリスク情報を活用した正当性を再検討する。2027 年度は、これまで対象としてきた最も重要な寄与因子や現実的な境界条件の設定の正当性を、リスク情報も加味してより明確に示し、現フェーズである 2025~2027 年度の研究成果を取り纏める。2028 年度から始まる次フェーズでは、リスク情報を活用した明確な根拠に基づき、事業者と協議の上、評価条件を検討する。

(4) 統合リスク評価の手法とガイダンス

NRRC は、統合リスク評価研究と並行して進められるよう、マルチハザード PRA（リスクに寄与する主要なハザードを網羅した PRA）研究の早期の立ち上げを目指す。マルチハザード PRA の一環として、リスクの統合に必要な手法の開発を行う。

(5) 地震 PRA とモデルプラントを用いた地震 PRA プロジェクト

地震 PRA 研究および地震 PRA モデルプラント研究については次の実践的段階としてレベル 1.5PRA に取り組むべきという助言に関しては基本的に賛成し、拝承する。同時に、再稼働審査中かつこれから SAR で地震 PRA を実施する事業者は、NRRC がレベル 1PRA に係る技術的支援を行うことを強く希望している。そのため、NRRC はレベル 1 地震 PRA に継続して取り組みつつかつ、レベル 1.5 地震 PRA に拡大・展開しておくことが必要と考えている。

敬具

A handwritten signature in blue ink, appearing to read 'George Apostolakis', written in a cursive style.

ジョージ・アポストラキス（本人署名）